

メイン わたしのまちの 目in イベント

「目」にまつわる、全国各地のイベントを紹介します。

No.4 ブラインドメイク講座

- 2014年6月3日(火)
- ヘアラルト阪神理容美容専門学校(兵庫県尼崎市御園町37)

理容師・美容師の卵たちにも伝えたい

理容師・美容師養成施設としては初めて、本校において、ブラインドメイクの授業を昼間部の理容科と美容科の2年生の2クラスを対象に行いました。

ブラインドメイクとは、視覚障害者の女性が自分でメイクアップを行う方法です。私が社会福祉法人視覚障害者文化振興協会の理事を務めている関係で、このプログラムを開発した理容師で化粧訓練士でもある大石^{かほう}華法さんと知り合いました。そして、ぜひブラインドメイクを理容師・美容師を目指す私の学生たちに伝えたいと思ったのです。

視覚障害者の実演を熱心に見る学生たち

当日は、まず大石さんからブラインドメイクに関する解説があり、その後視覚障害者の河西麗子さんと松下恵さんによる実演が始まりました。スキンケアからベースメイク、ポイントメイクにいたるナチュラルメイクを約20分かけて仕上げていきます。ビューラーでまつ毛をカールさせマスカラを塗布する動きなど、学生た

紹介者



ヘアラルト阪神理容美容専門学校
理事長
半田まゆみ さん

関西学院大学法学部卒業。美容師免許取得。理美容業界の仕事だけでなく、著書も多数。大学での講義やさまざまな講演などエネルギーに活動。2013年、厚生労働大臣表彰受賞。

ちは食い入るように見ていました。お二人はフルメイクができるようになるまでには、約10時間のレッスンを受けたとのこと。また、メイクができるようになってからも月に1回は大石さんのサロンを訪ね、顔のシェービングとメイク方法のメンテナンスをしているそうです。

女性もシェービングを行うと、ファンデーションの付きが良くなりますし、眉のシェイプが整います。法律でシェービングは美容師にはできず、理容師ができる技術となっているため、女性理容師による女性へのシェービングは大事なのですが、とくに視覚障害者の方には必要だと感じました。

ブラインドメイクで手に入る 凛とした女性らしい生きかた

視覚障害者は、「メイクやおしゃれができない」「転んではいけないからハイヒールを履いてはいけない」などのセリフばかり言われるそうです。ところが、お二人はメイクをするようになってからは積極的に外出したりと、いろいろなことにチャレンジするようになったそうで



ブラインドメイクのデモンストレーション



ブラインドメイクに挑戦する学生たち



学生たちを見守る大石さん(中央)

す。「化粧は女の人に力を与える」と断言していたのが印象的でした。

このデモンストレーションを見ていると、時間をかけてゆったりとした気持ちでメイクアップを行うと女性は美しくなるということを実感します。とくに、顔や首筋の骨格や筋肉・リンパの流れを手の平と指で確認しながら流れるように動かしているところは、素晴らしいスキンケアとメイクアップ方法です。そして、仕上がりは清楚で上品になっています。

ブラインドメイクを習得され、向上心をもって生きておられる河西さんと松下さんには、外見の美しさだけでなく、凛とした女性の生きかたの美しさを感じます。

晴眼者にも便利な拡大鏡

また、株式会社タイムズコーポレーションの山口成志社長からは拡大鏡の紹介がありました。アメリカのホテルではたいてい設置されており、毛穴まで見えるので、視覚障害者だけでなくメイクアップの際や、目の見えにくい高齢の方にも役立ちます。

同行援護者のチェックも大切

最後に、同行援護者の仕事をしている野崎浩子さんからお話がありました。私たちが鏡を見るときはきれいなところだけを見るのではなく、口紅がはみ出していないか、衿がゆがんでいないかなどを確認しています。同行援護は目になり代わってさまざまな情報を伝える仕事であることや、自信を持つ松下さんを見て元気をもらえたという感動的な経験を語っていただきました。

学生たちも挑戦し、貴重な体験を実感

その後、学生同士でペアになりブラインドメイクに挑みました。一人が声を掛けメイク指導をして、一人が鏡を見ずに指の感覚でメイクを行いました。どうしても利き手側の色が濃く付いてしまうなどの発見があり、実践で感覚をつかむ貴重な実習となりました。

今後は……

本校では、今後もさまざまな障害のある方や、高齢者のヘアやメイクの対応などを視覚障害者文化振興協会と協力して取り組んでいきたいと思っています。